

経営協議会の学外委員からの意見を法人運営の改善に活用した主な取組事例

- グローバル化で求められるものは、英語教育だけではなく、日本の歴史文化などの教育をしていかないといけない。
(平成24年6月21日 第36回経営協議会)
- 「アウェーで戦える人材」をキーワードに、教養教育全体を見直し、コミュニケーション能力や文化系の基礎的な素養を盛り込めるプログラムとする。
- 業務の実績に関する報告書について
単年度の報告書ではあるが、非常に大きな変化があった年（平成23年度）であるので、安全、国際化などに対する意識変化がみえる報告書になるような工夫が必要である。
(平成24年6月21日 第36回経営協議会)
- 中期計画の第2期の2年目にあたるので、1年目の計画・評価を通してどう変化があったのかを示す報告書を作成することとする。
- 男女共同参画推進センターの女性研究者の支援部門において、次世代の女性研究者である女子学生についても具体的な形で支援をお願いしたい。
(平成25年1月24日 第38回経営協議会)
- 女性研究者の家庭と研究の両立、大学院生などのキャリア形成につながることを目指して配置する「研究サポーター制度」を本格的に導入するにあたり、出産、育児、または介護をしている女性研究者の研究活動を支援するために、平成25年度新たに「サポーターバンク」への登録を開始する。